



ちばりは ニュース

2015年2月 発行 第20号
千葉県千葉リハビリテーションセンター 広報誌



〒266-0005
千葉市緑区誉田町1-45-2
TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857
ホームページアドレス
<http://www.chiba-reha.jp/>

理 念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

— 私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します—

基本方針

- 利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。
- 日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。
- 地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。

病院機能評価の認定を更新しました！

当センターでは平成22年1月から、日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を受けています。

この認定には5年間の有効期限があるため、更新時期となる本年度はセンター全体で準備に取り組んで参りました。

平成26年10月21,22日の2日間、訪問審査を受審し、書面による審査の結果と併せ、**平成27年1月5日付で新たに5年間の認定を受けることが出来ました。**

今号では、病院機能評価で認められた当センターの特長、そして受審へ向けた取り組みをご紹介します。

(訪問審査当日の様子)



新しい認定証です。病院の持つ機能毎に認定を受けています。
(左：リハビリテーション病院、右：慢性期病院（愛育園）)

病院機能評価とは？

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者（サーベイヤー）が中立・公平な立場に立って、所定の評価項目に沿って、病院の活動状況を評価します。

次ページでは、センターが高い評価を受けた点をご紹介します！

・センターのここが評価されました！

病院機能評価では、評価項目をS（秀でている）、A（適切に行われている）、B（一定の水準に達している）、C（一定の水準に達していない）の4段階で評価しています。

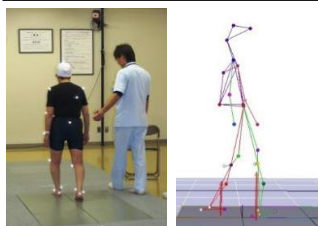
当センターでは全112個の評価項目の中で、**S評価を8項目で獲得し、B評価以下についてはわずかにB評価が3項目のみ、それ以外は全てA評価と、非常に高い評価を得ました。**ここでは、高評価を受けた点をご紹介します！

リハビリテーション機能

- ・理学療法を確実・安全に実施している **(S)**
- ・作業療法を確実・安全に実施している **(S)**



訓練の様子



三次元動作解析装置

適切な計画の作成やその実施・評価はもちろんのこと、三次元動作解析装置による評価やロボットスーツを用いた訓練、高次脳機能障害を持つ患者に対する社会参加への支援（詳細は次ページ）といった特徴的な取り組みが高く評価されました。

地域との連携・情報の発信

- ・地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携している **(S)**
- ・地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている **(S)**



センター公開講座



センター主催行事における発表

県のリハビリテーション医療の中心機関として、他の施設や地域に向けて様々な研修会を実施しており、**センターが主催する研修会への参加者は1年間で延べ1000人近くに上ります。**また、講師の派遣も長期に渡り行っており、これらの取り組みが、県内における指導的な役割を果たしているとして評価されました。

在宅移行への支援・相談対応

- ・必要な患者に継続した診察・ケアを実施している（主機能 **(S)**、副機能 **(S)**）
- ・患者・家族からの医療相談に適切に対応している（副機能 **(S)**）



福祉機器展示室

計画的に退院・在宅移行へ向けた支援が行われており、福祉機器展示室も活用し、利用者の方が在宅生活を具体的にイメージできるよう工夫しています。また、地域へ戻った際、必要となる情報を病院や施設へ向けて適切に伝達しています。

この他、利用者本人や家族からの多様な相談に高い水準で応えているだけでなく、**他事業者への指導など社会資源を増やす取り組み**も行っており、「他の模範となる」という評価を頂きました。

療養生活の充実

- ・療養生活の活性化を図り、自立支援に向けて取り組んでいる（副機能 **(S)**）



病棟の食事風景



ボランティアによる演奏会

病棟では、多職種のスタッフが柔軟に役割を分担しながらケアを行っています。また、愛育園ではボランティアの協力も得ながら様々なイベントを開催したほか、保育参観にご両親を招き実際に保育に参加して頂くなど、入園中の生活の充実のための活動が高い評価を得ました。

評価結果は日本医療機能評価機構HPの「認定病院検索」でもご覧いただけます。

・具体的な取り組みのご紹介 ～成人高次脳WG～

センターには、1つのテーマに対して多職種で議論し改善に取り組むワーキンググループ（WG）が多数存在します。これらWGは、医療の質を向上させる取り組みとして高い評価を受けました。では、実際にどのような取り組みを行っているのでしょうか。具体例として、**成人高次脳WG**をご紹介します！

成人高次脳WGは、医師、ソーシャルワーカー、心理士、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士、看護師、視能訓練士で構成されています。毎月1回の定例会議の中で議論を重ねながら、高次脳機能障害を有する当事者やそのご家族に役立つ支援の構築のために様々な取り組み（右図参照）を行っています。このWG活動で得られた知見や支援のノウハウは、学会及び研究会での発表や講習会などを通して積極的に外部に発信しています。また、WG活動の一つである**自動車運転再開支援**は、センターの枠を超えて全国規模の共同研究へと広がっています。

成人高次脳リハビリテーションプロジェクト
(入院・外来)

【主な活動】

- 相談支援
- 自動車運転再開支援
- 高次脳グループ訓練
(心理、OT、ST、PT)
- 入院リハビリプログラム
- 生活リハビリプログラム
- 服薬自立支援
- メモリーノート支援
- 半盲・複視への支援
- 家族のための高次脳講座
- 外来高次脳カンファ
- スタッフ向け学習会



多職種チームで
頑張ってます！



自動車運転再開支援事業

センター内のドライブシミュレーターに加え、自動車教習所の協力を得て実車を用いた評価を行います。



家族のための高次脳講座

高次脳機能障害の症状や利用できる福祉サービスについて情報を提供し、家族との交流を行っています。



スタッフ向け学習会

WG内で共有した内容を、他のスタッフにも伝えています。

・受審を終えて…

今回の更新受審にあたり、センターではプロジェクトチームを中心に準備を進めてきました。その中で、事前のシミュレーションにおけるサーベイヤー役などで活動した荒木暁子看護局長に準備の様子についてお話を伺いました。

—準備について伺います。まず事前に提出する自己評価票を作成しましたが、どのように作られたのでしょうか？

荒木：多職種で構成されたプロジェクトチームメンバーで作成しました。評価項目の解説を参考に、何が求められているのかを読み取り、それに対応するようにセンターの取り組み内容を丁寧に記述しました。この自己評価票の作成を通して、自分たちの基準を再確認することができたと思います。



プロジェクトチーム会議の様子

—その後は病棟が中心に準備を進めていきましたが、その中で変化はありましたか？

荒木：訪問審査を受ける病棟ごとに、症例トレース（実際の症例に基づいた審査）のシミュレーションを何度も繰り返しました。繰り返していくうちに何を話すべきかが分かり、完成度が上がって行きました。また、準備の過程で病棟が一丸となり、チームの意識が強くなったと思います。

—今回の審査では自分たちの良い点を積極的にアピールする姿が見られました。

荒木：これまで自分たちの良い点を意識して仕事をするとはあまりなかったと思いますが、私たちの独自の事業や優れている部分は沢山あるので、これを機に、病院機能評価に限らず、外部に自分達を紹介する時にはその点を意識していけるようになってほしいと思います。

—5年間の認定期間中にはどのような取り組みを行っていくべきでしょうか？

荒木：今後は継続的に改善へ向けた取り組みを計画的に行っていければ良いと思います。

第11回高次脳機能障害リハビリテーション 講習会（ご報告）

平成27年1月17日（土）千葉市文化センターにおいて、「**高次脳機能障害～その症状と小児期の諸問題**」というテーマで第11回高次脳機能障害リハビリテーション講習会を開催いたしました。

講演では、帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科教授の中島恵子先生に「**高次脳機能障害の症状と小児期における対応**」と題してお話をいただきました。

また、後半のシンポジウムでは「**小児期発症の高次脳機能障害をめぐる現状と課題**」と題して、医師、リハビリスタッフ、特別支援教育コーディネーター及び保護者の方々をシンポジストとして迎え、それぞれの立場からお話をいただき、議論を交わしました。

当日は160名を超える多くの皆様にご参加をいただき、ありがとうございました。

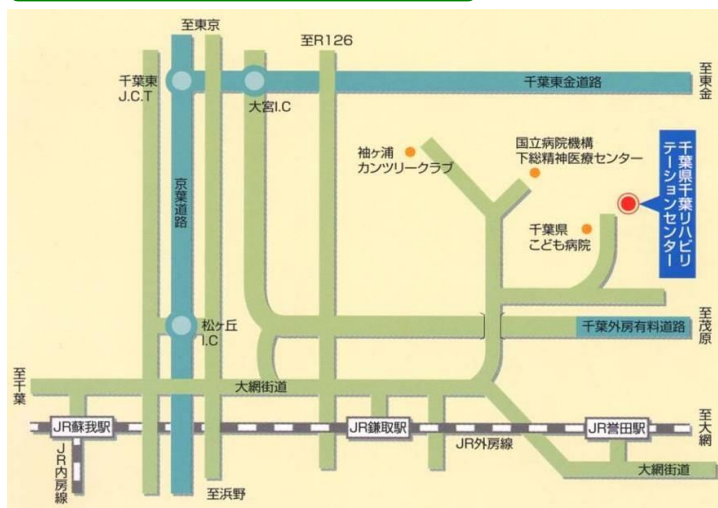


講演風景



シンポジウム風景

センター案内図



更生園ふれあいフェスタ



平成27年2月20日（金）センター大ホールにおいて「**更生園ふれあいフェスタ**」が行われました。

この行事は、更生園の行う社会リハビリテーションの成果の発表と、地域の施設との交流を目的に年1回開催されています。

会場では、更生園の施設や各コースを紹介するパネル展示、利用者がプログラム活動で作製した作品の展示が行われました。また、利用者や地域の作業所によるお菓子や花・雑貨の販売のほか、職員も参加してのバザーも行われました。

お昼時の開催という事もあり、多くの職員や利用者の方が各ブースに列を作り、次々と商品を買って、あっという間に完売となりました。また、作品の展示にも関心を持って見入る姿が多く見られました。



会場の様子



作品の展示

車のご利用

- ・千葉東金道路 大宮インターから約10分
- ・京葉道路 松ヶ丘インターから約25分

電車・路線バスのご利用

- ・JR千葉駅東口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約40分
- ・JR外房線鎌取駅北口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約9分

無料送迎バスのご案内

平成25年10月5日改定

（センター⇄JR鎌取駅 循環運行）

JR鎌取駅北口発 千葉リハビリテーションセンター行き 千葉リハビリテーションセンター発 JR鎌取駅北口行き

時	平日	土曜日
8	10 30 50	10 30 50
9	10 30 50	10 30
10	10 30 50	20 40
11	10 30 50	00 20
12	10 30 50	
13	10 30 50	
14	10 30 50	
15	10 30 50	
16	10 30 50	
17	10 40	

時	平日	土曜日
8	03 23 43	03 23 43
9	03 23 43	03 23
10	03 23 43	13 33 53
11	03 23 43	13
12	03 23 43	
13	03 23 43	
14	03 23 43	
15	03 23 43	
16	03 23 43	
17	03 33	

- ①センター送迎バス発着場所について
鎌取駅発・・・鎌取駅北口ロータリー付近
（専用のバス停はございません）
センター発・・・センター正面玄関前
- ②車椅子ご利用の乗車定員について
中型バス（黄色）・・・2名
マイクロバス（水色）・・・3名
- ③日曜・休日は運休となります。
- ④道路混雑等により遅延する場合があります。